ニカラグア・アヴァンギャルド資料

崎山政毅（訳）

①「ニカラグア・反アカデミー」第一宣言

第一マニフェスト
ニカラグア・反 - アカデミーの軽やかなる説明および声明

“教養人のアカデミーについてですよ”
ルベン・ダリオ

1　国民文学の展望を開き，ある種の文学的中心地を建設せんと努力する，国民の中における明確な知識人としてありうるような前衛の核を形成するために，この都市において文学を愛好する何人かの青年分子の存在を活用しなければならない。

2　反 - アカデミーという名称およびこの集団のサークル的構造は，会合と共同行動の機会を容易にするという目的をもっているが，それは，この運動の諸特徴となるであろう，ひどく厄介な個人の自由・開拓者精神・青年の攻撃性からなる性格を明らかにするものでもある。

3　反 - アカデミーの作業は，われわれの祖国で芸術の名において理解されているさまざまな表明にひとえに限定される。この作業は二つの運動を含むことになろう。つまり，探究のそれと創造のそれである。探究の運動は，過去のニカラグアのあらゆる芸術的表明に光明を見出し引き出す性質をもつものであり，われわれの国民的伝統の純粋な鉱脈をつらぬき，真正ではない手作りの不毛な過去，つまり一言でいえばアカデミー的でありうる過去についてのすべての表明とたたかう，反 - 位置におかれた運動なのである。創造の運動は，われわれの本質的な国民精神において個人のへそのような意識のために構築された，われわれ自身の作品をさしている。

4　われわれは，国民を意識し，同胞の感情にひとしい本質を芸術形式で表現するわれわれの様式にふさわしい雰囲気を醸し出すために，怠りなく規律正しく取り組むよう努力しつつ，すべての反 - アカデミー構成員および構成員たらんとするすべての人びとの善意をあてにしている。そのために必要なものは以下のとおり。A）頻繁な会話，友情にあふれる競争心，共同作業，集団内での表明，朗読の交流，ユニゾンとしての局地戦およびゲリラ戦，喫茶店，雑誌，アンソロジー，パーティ，小劇場，遍歴などをつうじて，われわれ自身のあいだで精神的統一性を維持すること。B）芸術的クー・デタ，知的スキャンダル，攻撃的批評，文学上での戦闘，現代芸術の無礼な展覧会，アカデミー的文学が患う不毛さ，貧血症，マラリア，その他の病状にたいする告発をつうじて，読者の注目を集めわがものにしつつ，読

者の征服に着手すること。これはまた，その他以下に挙げるさまざまな効果的手段をつうじてもおこなわれる。

1—10年以上にわたって世界を席捲してきたアヴァンギャルドの技法を知らしめること。その技法が，すたれてしまった修辞法をもちいる老人たちや模範的な死者たちよりもはるかに容易に自発的にそして誠実に，若者たちが彼らの個人的な情動や国民感情を表現することを許すにしても，ニカラグアではほとんど知られてこなかった。模倣のためのモデルとしてではなく，見習うべき自由の一例として，そして他の諸国民の新たな精神を反映しているような芸術や文学の書物を赤面させるような自由の一例として，われわれが精通している諸言語をもちいて，われわれに役立つ詩作をわれわれ自身が訳することとなろう。そうしたことは，過去のそしてニカラグアの真の民間伝承の，わが文学・芸術の領域においてわれわれが実現していく探究作業によって，なされるだけの価値があり，それゆえにわれわれの芸術のかかる表明は，先に述べたような外国芸術の表明にたいして，自発的な大胆さにおいて，純潔な面白さにおいて，そして芸術的純粋さにおいて，何一つとしてうらやむべきではないものである。2—芸術的・文学的マニフェストを，美についてのわれわれの一般概念と技法にたいするわれわれの基準を表明していくさなかに発していくこと。そしてわれわれの拓く大地を，第一の手段としてニカラグアに**在ること**そして**居ること**のもつ情動にたいする手綱を解き放ち，第二の手段としてこの地とこの精神を万人にとって同化可能で具体的で触知可能で思いやりがありやさしいものにすることを，要するにニカラグアの芸術的再生を開始することを望む芸術家たちに提供しうる展望を開くべく試みていくさなかに発していくこと。3—われわれの責任で，あらゆる外国の商業的・政治的な阻害を排して，国民文学・国民芸術の再興に着手すること。つまり，富める者どもの悪趣味，アカデミー会員輩の偏見，衒学者どもの嘲笑，貧民たちの無関心を相手にせずに，国民詩の，国民演劇の，国民的な絵画・彫刻・音楽・建築の創造にとって英雄的行為が必要ならば，とことん粘り強く敢然と献身することである。**不可能**という言葉をわれわれは知らない。われわれが求めているのは，血塗れの党派主義的革命よりも高貴で栄光に満ち，商業主義的な肥満症の満腹感よりも役立つ，われわれの無血革命に執りかかるために，文学的ダイナマイトや文学的銃弾にいたるあらゆる手段を活用することである。

5　われわれの運動に安定性と有効性をあたえるために，われわれの伝達手段の基軸あるいは軌路となりうる，さしあたって以下のような，きちんとした制度的性格をもついくつかの小企業を設立する必要がある。a）**芸術カフェ**。酒場，レストラン，ソーセージ屋，現存する旅館あるいはホテルに，反 - アカデミー的である，あるいは反 - アカデミー的な感じ方をしている人びとすべての会合と訓練のためのポイントとなりうるものを創立するか，そうしたポイントをうまく選び出す。それはつまり，われわれが防衛し，飾り付け，そこに“芸術カフェ”という麗しき名をつける場である。入店は会話と同様に自由かつ無料だが，毎週特定の日を，支援がすぐれて推奨され，またとりわけ歓迎されるような日として定めることとする。b）小劇場。植民地期の演劇・民衆的演劇・そしてわれわれの演劇の，不思議な，謎にみちた，宗教劇・舞踏あるいはバレエ・集団劇・幕間寸劇・

田園詩劇・そしてあらゆる部類の俳優あるいは操り人形の演技にかんして，われわれ自身がつくった現代戯曲作品を上演する小劇場を，あちこちの広場や掛け小屋あるいは舞台において開催する。c）報告書。ニカラグアの先住民芸術，植民地期芸術，民衆芸術にかんしてなされた研究の報告書を頻繁に発表する予定である。d）特集ノート。われわれがつくりあげる文学アヴァンギャルドの芸術作品を知らしめるため，何冊かのアヴァンギャルド特集ノートを定期的に刊行していく。e）アンソロジー。同様に，しかるべき時宜をえて，ニカラグアでつくられる新たな詩のアンソロジーを，われわれの読者および外国人に対してその詩作を知らせるために編集する。（われわれの報告書，ノートなどなどの刊行のために，われわれ固有の勢力を，何人かの印刷所所有者の助力を，たとえ歴史があるにせよわれわれの探究の重要性の価値を認めることさえできないであろう敵・文学アカデミーそのものを，そして最後に最高政府にいたるまで，われわれはあてにしている。）

そういうことで，われわれが創設し属している反 - アカデミーの確固たる目的と全般的展望を軽やかに表明するものである。

（署名）ブルーノ・モンガロ，ホセ・コロネル・ウルテーチョ，ルイス・カストリージョ，ホアキン・パソス・アルグエージョ，パブロ・アントニオ・クアドラ，オクタビオ・ローチャ，ルイス・アルベルト・カバラーレス，マノーロ・クアドラ，ホアキン・サバーラ・ウルテーチョ。

グラナダ市　1931 年

Bruno Mongalo *et alli* “PRIMER MANIFIESTO LIGERA EXPOSICIÓN Y PROCLAMA DE LA ANTI-ACADEMIA NICARAGÜENSE”, en Mendonça Teles, G., & Müller-Bergh, K (comp.), *Vanguardia Latinoamericana*, Tomo I (2ª edicion), Madrid, Iberoamercano, 2007, pp.270-2.

②ホセ・コロネル・ウルテーチョ「ルベン・ダリオ頌歌 Oda a Rubén Darío」より

むなしく自分を探したがゆえに
君の夢のカーテンのなかで
ぼくは君を《先生，先生》と呼ぶのをやめた，
壮麗な君の音楽が
君の沈黙のここちよい調べであるところでは。
（どうして逃げてしまったんだい，先生？）
（君のタピスリーにはいくつかの血のしたたりがある）

Solis, Pedro Xavier, *El Movimiento de Vanguardia de Nicaragua; Análisis y Antología*, Managua, Fundación Vida, 2002, p.55

③パブロ・アントニオ・クアドラ「塔の中の詩人たち　『アヴァンギャルド』運動の思い出」より

［マニフェスト発表後――崎山］すぐさまわれわれは活動を開始した。何日もまるまるかけて，われわれは芸術カフェのデコレーションや看板や家具をそろえた。開店の料理メニューを作製した。それは次のようなものだった。

メニュー

コクトー・カクテル（コクテイル・コクトー）
“食欲をそそるための歌”
ホアキン・パソス作
（白ワイン（ヴァン・ブラン））

“雛鳥”
ルイス・ダウニング作
ウサギおじさん・ア・ラ・マヨネーズ
（詩人アポリネールのソーダ水）

“鳩”
オクタビオ・ローチャ作
同時性主義タリアテッレ
シャンパーニュ・クローデル
コロネルの蜂蜜（ミエル）

デザート
“オレンジの歌”
パブロ・アントニオ作
カフェ……さまざまな芸術の
紙巻きタバコ（シガリージョス）
つまようじ（パリージョス）

われわれは招待状を作製した。金を使った。想像をめぐらせた…。ところが開店前のある日，家主がわれわれのほどこしたデコレーションを見るや，われわれがサロンを借りることをきっぱりと断り，われわれをそこから放り出した。こうしてキュビスムはニカラグアでの初戦に敗北したのだった！

Cuadra, Pablo Antonio, “Los poetas en la torre: memorias del movimiento de “vanguardia””, en idem., *Torres de dios*, Managua, Ediciones La Prensa Literaria, 1985, pp.172-3.

④論説「ナショナリズムとサンディーノ主義」

前衛的ナショナリズムの旗幟を掲げることを熱望している青年たちのあいだに，現今のニカラグアを表現しうるに唯一ふさわしい存在として，セゴビア地方における反乱者であるサンディーノへの賛美の切望が住みつきつつある。

ルイス・アルベルト・カブラーレスは，［われわれの］前衛主義者たちに対するアンケートにこたえて，サンディーノは期待にこたえてすぐれた成功をおさめたことを，愛国者，つまりニカラグアを愛する者としてではなく，薄情な一ニカラグア人としてわれわれに提示しており，彼のなしたことはアヴァンギャルドの絶頂にほぼ達していると述べている。だが，威厳をもち高潔なニカラグア人たるサンディーノ自身の自覚を前にして，ニカラグアが《今日アメリカ大陸全体の恥辱となっている。そのように彼はアメリカ大陸と世界を受けとめている。そしてそれには十二分に理由がある》ことの銘記がいかにして正当化できるだろうか。彼のナショナリズムの唯一の理由たる，彼の言う《ニカラグアに対するわが情熱》なるものと先の結論は両立しうるのだろうか？　そうした正統なナショナリズムはどこに存在しているのか？

カブラーレスは，そしてわれらがまったき大混乱のさなかから世界に対してわれわれを救済する唯一の頂点としてサンディーノを信ずるカブラーレスとともにある前衛主義的青年たちもまた，ニカラグアの言葉を語らずに外国語を話しており，その考え方はナショナリズムではなく純粋な外国崇拝である。彼らが無意識な反響をおこしながら解釈するのは，アメリカ合衆国に反対するよそものの情熱であって，ニカラグアで生まれたニカラグアの意見ではない。アメリカ大陸と世界におけるサンディーノへの熱狂は，反米主義の卑劣な恥辱行為以外のなにものでもない。

それらの青年たちはいつになれば，ニカラグアとともにニカラグアにおいて，あるいは外国人とともにニカラグアにおらずに，考えをめぐらせつつ真の**ニカラグアに固有な芸術**をつくりだそうとするのだろうか？　もしカブレーラスがニカラグアの言葉でものを考えているのなら，たとえサンディーノが一個の頂点でありうると信じていても，カブレーラスの祖国が恥辱であるなどと信じはしないだろう。

ニカラグアの魂は健全性にあり，みずからの祖国の利益よりも外国人の賞賛をもとめている恥をかかされたそれらの青年たちが侮辱にみちた愚弄をもってニカラグアを傷つけていてもなお，ニカラグアがそうした魂を有していることは高い賞賛に値する。

われわれにできることは，尊敬に値する祖国を不当に貶めるそうした攻撃に対する抗議以外にない。もしニカラグアがその栄光の頂にサンディーノしか有していないのなら，征服されるにふさわしいまさしく惨めな国ということになるだろうが，ニカラグアはそのような存在からほど遠い。ニカラグアはきわめて肯定的なさまざまな価値をもっており，その青年層自身は，まるで正統なナショナリズムであるかのような顔をした，かの妾腹のサンディーノ主義――純粋なよそものの心性――によって常軌を逸された存在として祖国をとらえることを待ち望む輩よりもはるかに有望なのである。

『ニカラグア日報』1932 年 8 月 24 日論説欄

“Nacionalismo y Sandinismo”, *Editorial de “El Diario Nicaragüense”*, 24 Agosto, 1932.

⑤論説「ニカラグア氏族」

われわれは前代未聞の頽廃と遁走と疎遠さの力を前にしている。隠れているようではあるが，見え，感じられ，それ自身が姿を現し，そして自らの手になる作品に出演するような，衰弱の，痛風の，癌の，障害のそうした力を前にいる。そうした力を前に，身体と道徳をもって，要するにエネルギッシュに私は語る。どのような感情を対置するべきなのか？　より正確に言えば，何らかの感情を対置しなければならない。そうでなければかの力を打ち負かす別の身体の力を対置しなければならないのだろうか？
それは個人の，階級の，趣味を同じくする仲間たちの心理状態にかかっている。こうして，われわれがすでにすべて知ってはいるもののほとんど拒絶できていない，猛毒を発する絶望の薄汚れた瘴気が，われわれを窒息させるのだ。魂は憂え，かの深奥から侵略に対する抗議の叫びをわれわれにたいして強烈に投げかけてくるが，骨の髄までわれわれを締めつけている拘束具が存在しているためにその叫びはひっくりかえってしまっていることを，われわれは感じ取っている。
我慢ならぬ追従。下劣さ。太鼓腹をした卑屈さ。おべっか使い。
頽廃の前代未聞の力。遁走の力。
それは**ごろつき**の世界をつくりだしつつある。
それは生み出しつつある。
このニカラグア国民の魂とも脳髄とも無縁なヤンキーの無教養の重圧を前にして，われわれのナショナリズムの活力は売笑婦のような政治的変節と道徳的堕落によって滅び行きつつある。
人種的感情は失われつつある。
言葉が失われつつある。
宗教が失われつつある。
名誉が失われつつある。
大地が失われつつある。
侵略はわれらが民族の征服を目論んでいるのだ。
誰一人として文化環境の消毒を試みようとはしていない。ニカラグアの自由の消毒を。
頽廃をもたらすその前代未聞の力。遁走の力。どちらも外国へと向かおうとするごろつきの世界を生みだすものだ。われわれの中心をなす約束と力能の本来的な場所を捨てさせる世界。
われわれを滅ぼそうとしている遠心力。
中心へと戻らなければならない。
よりすぐれた力を，求心力を生み出さなければならない。
ニカラグア氏族を形成しなければならないのだ，愛するニカラグア人たちよ！

『前衛』編集部論説（1932年）
“La Fratría Nicaragüense”, *Artículo Editorial de “Vanguardia”*, 1932

⑥代表的作品「ブルジョア呆響曲」（1931 年の詩ヴァージョン）

《ブルジョア呆響曲》の自己紹介

この（アヴァンギャルド運動の）数年のあいだに，われわれは，伝統的な民衆詩の小さな足跡のさなかに，われわれの国民芸術を熱心に探し求めてきた。（…）そうした詩　わが先住民の陶器のごとく色彩にみちている　を研究してみると，もっとも簡潔な分析はわれわれに，われわれの芸術作品を特徴づける二つの要素を示してくれた。連続した脚韻と脚韻の暗示に富んだ価値，である。
第一のものは，その絶え間ない連続的な脚韻の反復で示され，たしかに単韻の詩の前古典主義的な定型がその起源ではあるが，たとえたったひとつの詩句の境界のうちにあってもなお，慣用語法が真に枯渇する限界の向こう側にまでとどくものである。第二のものは，まさしくわれわれの古くからの子守歌の詩的要素であり，脚韻から創作のさいの同じ詩的感性が，作者の意図とは別に何度も，沸き出てくるようにさせるものである。

（…）呆響曲というジャンルは形式および内容において幻想的なるものを利用する。それは，われわれの子守歌と喃語がもたらす幼児期の甘美さを失わせずに，指のタップや早口言葉や即興詩の喜びに満ちた笑いのすべてを凝縮するような詩における，ニカラグア的なからかいによる軽喜詩のスタイルなのである。

ブルジョア呆響曲の骨組みは，まったくくだらないものであり，その骨組みはすべて，あるふつうのブルジョアのふつうの生とふつうの死の，ふつうの冒険（アベントゥーラ）と不運（デスベントゥーラ）を示すことの要約である。商売人であるわが小市民の家庭生活は，それが悲惨なものであるためではなく，論理的であることをやめたがために，幻想にひたっているという悪条件も重なって，うちつづいている。

この主張において，われわれは，古く謎めいた植民地時代の足跡をたどりながら，イグアナの出産の伝説を利用している。同時に，いわゆる驚異的な動物の動物学的な詩の発見について，脚韻の命ずるもと，注目をよびかけなければならない。感じのよい怪物であるフォフォロカは，この呆響曲の詩句のひとつで，ちょっとした気立ての良い家庭的な役回りを担っている。この魅力的で醜い音楽的動物は，アザラシ（フォカ）と傲岸不遜（ココロカ）の混交物であり，ブルジョアの動物学的表象なのである。

J.P.（1931 年）

訳註：文中の（…）は原文どおりである。
Presentación de la “Chinfonía Burguesa”, por Joaquín Pasos, 1931.

ブルジョア呆響曲

ホセ・コロネル・ウルテーチョとホアキン・パソス作

ブルジョア的形式でのプレリュード

O

O　s　O

8

8

酔っ払い　酔っ払い

チョン

あぶく銭こ

アセ　アセ　アセチレンランプ風の

7

ドン

ナポレオン　ボロキレを着た

ドン

ライオン　キイロイヌアリの姿をした

メロン氏

山高帽旦那

銭

銭

おまる

うすらばか

チリチリン

おわり

家庭内のアンダンテ

そこはくたびれた家
めくれあがっている瓦
暮らしているのは夫婦
ふたり
咳込み。
さようなら。
パーティの広間
ひじ掛け椅子のチョン

厚皮動物の椅子
それにパカの安楽椅子。
たくさん　ノックの音がタン
するのは玄関,
開けとけ　開けとけ　扉を　ノルベルタ，　眇のベルタ
パン。
おいとけ
テーブルに，テレサ
こわばったトルティージャ
マヨネーズ
ウスター・ソース
スススススススススススス…
チョー
チョン
ピピピピピィー
フィフィー
かわいいフィフィーまるでティティー猿
これニオイアラセイトウ？
そうよ。
山高帽旦那と爆弾夫人のお嬢
トロンボーン氏と竜巻夫人の
牛の骨氏とセーター夫人の
変人
ピピピピピィー
フィフィー？

そうよ。
どうやって彼を恋人にするの？
ピン　ピン，　ピン　ポン
「誰と結婚したいんだい？
月かい,
太陽かい,
じじいの太鼓叩きかい？」

弱音器をもちいた対話

縮れ毛ちゃん　ほんとに素晴らしい
きげんはどうだい？

- 上々よ。
パントマイムに行くの。

- そうかい。
この脚韻におすわりよ。
ぼくにうちあけてごらんお前の心(コラソン)を
縦ロール髪(ティラブソン)ちゃん

- いやよ。
パパの 金　庫(カハ・デ・カウダレス) が
開くのは，へ音記号(ジャベ・デ・ファ)でかしら
それともレ音記号(ジャベ・デ・レ)かしら。
わたし知(ノ・セ)らないわ。
ぼくはそれを開(アブリレ)けるよ
P(ペ)音記号で。
ぼくが愛しているのはお前のお金(ディネロ)
- 愛(ヨ・テ・キエロ)しているわ
パパがシルク(ボ・レ)ハット(ロ)を愛してるように
- 待ち伏せ場所(エスペラデロ)であなたを待ってるの(エスペロ)

怒りのアジタート(アヒターエオ・フリオーソ)

このこと全てを知っている(サ・ビ・ド)
セーター夫人(ドニャ・チョンバ)とその夫(マリド)
焜 炉(エストゥファ)の隣で怒って鼻をならす(ブ・フ・ァ)
きちがいガチョウ(ロ・カ・オ・カ)みたいな傲岸不遜(コ・コ・ロ・カ)なでぶアザラシ(フ・ォ・カ)，フォフォロカ

叫ぶは悲鳴(グリタグリト)。
吹き鳴らすは鼻息(ピ・タ・ピト)。
フィフィー，フィフィイイ。
- あいつを殺(マ・ト)してやる，
折ってやる，鎖骨(オモプラト)を，
足(ピエ)を，腓骨(ペロネ)を。
- クソ詩人(プ・エ・タ)め
豚の鼻面(ヘタ)，
バラバラにしてやる指先の骨(ファランヘタ)
セーター夫人(ドニャ・チョンバ)が叫ぶには　ケーキ結構(ケ・ケ・レ・ケ・ー)，傲岸(コ・コ・ロ・コ・ー)かまそー(キ・キ・リ・キ・ー)，コケコッコー，
フィフィイー。
セーター夫人(ドニャ・チョンバ)　うんこケコッコー(カ・カ・ラ・カ・ー)
なんたる悲鳴(グリトス)！　なんたるショック(パ・タ・ダ・ス)！　なんたる鼻息(プフィドス)！

どれほど 息(レソプリドス) をきらしているのか！生気なくソファーに倒れ込むまでなんて，
ソファーのサバーに。

商売(モデラート・コメルシアル)のモデラート

あわれ山高帽旦那(ドン・ボンビン)　彼の問屋はもううまく卸さない：
海底電信がとどくは極地(ポロ ソロ)にだけで，
店(デペンディエンテ)　員(フレンテ)の顔にはくちばし(ディエンテ)が生え，
ソックス(カルセティネス)はスケート靴(パティネス)ですべるは(パティナン)，
レコード(ビクトロラス)プレーヤーに尻尾(コーラス)が，そしてピストル(ピストーラス)には羽(アラス)が生えるは
出し物(ロス・ヌメロス)が劇場(テアトロ)に 4 つ ず つ くりだすは(デ・クアトロ・エン・クアトロ)，
1 $ あたり 10,000 ねぶと(ディビエソス)になるは，
価格(プレシオス)は値上がり僧帽筋(トラペシオス)になるは，
%(ポルシエント・ポルシエント・ポルシエント)　%　%　は 座(ロス・アシエントス)　席(セ・シエンタン) に座り込むは，
短(ロス・サパトス)　靴(パトス) はアヒルのように泳ぐは，
マネキン人形は逃げ出す(セ・フーガ)は，
時計は 亀(トルトゥーガ) の卵を産むは，
傘(パラグアス)　はペチコート(エナグアス)をぴんと伸ばすは，
民謡(ベネテラ)の時代(エラ)だったのは(エラ)
かつて街道(カレテラ)が街道(カレテラ)にほかならずこの世界(ムンド)が第二(セグンド)の世界(ムンド)だったとき
賊(ラドロン) は石鹸盗(ハボン)むは，
ハム(ハモン)の腿肉レース(カレラ)をするは，
はたまた帳簿(リブロス)のフォークが食器セット(ロス・クビエルトス)のあいだで紛失したかのよう
目(コン・ロス・オホス・アビエルトス) を 丸(プエルトス) く(イェルト) し(ス) た 港(トゥエルトス) のこわばった(ムエルトス)　眇(ビスコ) の死者たち
あわれ山高帽旦那(ドン・ボンビン)彼の問屋はもううまく卸さない！

心理的なピアノ

山高帽氏(ドン・ボンビン)は戸棚(アルマリオ)から魂(アルマ)をとりだす，
百万長者(ミジョナリオ)の所有者(プロピエタリオ)の彼の魂を
そしてゆるゆると財産目録(インベンタリオ)をでっち(インペンタ)あげる：
―わしが持っているのは(テンゴ)
先祖代々(アボレンゴ)の梅毒スピロヘータ，
わが家の盾形紋章(エスクード)にかかれた藪蚊(サンクード)
それにへ(オンブリゴ)そのなかのイチジク(イゴ)。
このわしは心(コラソン)をもった酒壺(ティナホン)，
上着とズボン(パンタロン)をつけた酒壺(ティナホン)
そしてわしが袋(サコ)から取り出す(サコ)のは薄っぺらい(フラカ)酒瓶(ベタカ)

それに乾いた涙。
このわしはまるでハードボイルド男優みたいな硬派の男
このわしはまるで葉巻みたいな純な男
たったひとつの欠点は忘恩
ちょっとした思い上がったキス　骨でできたボタンみたいなキス
果実みたいな垢抜けない女中にくれてやった
けれどもわしは，感傷的で音楽的
さっさと動物の風景を観賞
そうして恥ずかしがりの尻に呆然としたまま。

- 持っているのは尻尾が生えた自動ピアノ
広間に交響曲をあふれさせる
(あるいはよくそう言われていた)
ホタテガイ風あるいはビオラ風の呆響曲を。
わしが踊るのはベーゴマ踊り
くずみたいな音を奏でるわしのバイオリンにあわせて
あるいは荒々しい音をたてるわしの木管の 楽　器 にあわせて。
けれどとりわけて愛しているのはわが自動ピアノ，
わしの自動ピアノ，マノーラ
彼女のプシュケーが小指の先骨に痰を吐いたとき，わしの愛は終わった。

蜜月のフィナーレ

フィフィー　一緒にいるのはその夫。
愛の巣。
篩いにかけられたトウモロコシ粉のジュース。
カッコー，カッコー，
あんたはだあれ？
小鳥ちゃんだよベニートの
失敗したベニートの。
メメー，メメー，
あなたはどなた？
ビフテキ様よ。
ルーレットのようにクソ詩人はぶくぶく太っていく。
太鼓腹はロマンセには優ることなく，
208ポンドに秤はためらう。
もう折れた足もなおった。
追加句のかわりに口ひげが生えてきて

そのソネットの骨格は彼を粉砕してしまった。

ブルジョア的な9めぐりの月
恋人関係から共住まいへの
取引の暇つぶしのあいだの
- キスで計られるその愛の取引 -
そしてその熱情の帰結として
フィフィーは一匹のイグアナを産んだ
間抜けなイグアナ，
ハコボ，
彼の名付け親はゴキブリ，
ゴキブリのナーチャ。
しまいにはひそやかな太った強き死が
ペチャクチャからかいの声をあげ彼らを墓に持ち去った。

José Coronel Urtecho & Joaquín Pasos, “Chinfonía Burguesa”, en Solís, Pedro Xavier, *El movimiento de vanguardia de Nicaragua*, Managua, Fundación Vida, 2002, pp.164-71.; Mendonça Teles & Müller-Bergh (comp.). *op. cit.*, pp.278-82.

⑦戯曲版「ブルジョア呆響曲」

ブルジョア呆響曲

裏声での序幕，2幕，終幕

ホアキン・パソス，ホセ・コロネル・ウルテーチョ作

登場人物

（デブの夫婦）
牛の骨氏，これはトロンボーン氏およびチョコレートボンボン氏に同じ
セーター夫人，これは竜巻夫人および爆弾夫人に同じ

フィーフィー（若い女性，上の夫婦の娘）
クソ詩人（へぼ詩人）
ノルベルタ・ベルタ（眇の女中）
死神（長柄の鎌をもった，ものすごいデブの老婆）
店員・バステキエタ
店員・コロラード・ウルビーナ
店員・ニコラス・ウバーゴ

第2カテゴリーの役者たち
自動ピアノ
椅子

ソファー
ひじ掛け椅子
安楽椅子

序幕

ひじ掛け椅子1つ，椅子1つ，ソファー1つ，自動ピアノ1台が備え付けられた，ブルジョアの広間。めったにない悪趣味な絵のかずかず。正面奥に戸口と窓(家具はいずれも役者が変装し，台詞をしゃべるさいに頭をもたげる。役者の声は家具の声を表す。舞台は無人。)

椅子　(*頭をとびださせてから隠す*) わたしは椅子のパキージャ。
ひじ掛け椅子　(*同上*) 吾輩はひじ掛け椅子のチョン。
安楽椅子　(*同上*) わたしは安楽椅子のパカ。
ソファー　(*同上*) ぼくはソファーのサバー。
自動ピアノ　(*同上*) わたしは自動ピアノのマノーラ。
ひじ掛け椅子　吾輩は消化をたすけるためのひじ掛け椅子のチョン。

(*台詞をしゃべったらすぐに，頭をつきだしたままにしておく*)

椅子　わたしは足を組むための椅子のパキージャ。
自動ピアノ　わたしは自動ピアノのマノーラ，誰も弾かないときでも演奏できるのよ，ひとりで。
ソファー　ぼくはソファーのサバー，御主人と奥様がいっしょに座るのさ。
安楽椅子　わたしはおバカなお昼寝のための安楽椅子のパカ。
ひじ掛け椅子　吾輩にすわって葉巻をふかし，吾輩にすわって銭のことを考える。
安楽椅子　わたしはあくびを揺すりおこして，くしゃみするのを助けるの。
自動ピアノ　わたしがセンチメンタルな舅を喜ばせるわたしの存在の音楽的なありかたで，わたしは彼の完璧なごひいき，日々の秘書，いちばん大切な美の女神。
ひじ掛け椅子　吾輩らには二,三のささやかな御主人たちがいる，夢を，共同経営者なしのその商売を，その直々のプロジェクトを，梁材売りのその事業を，禁止されている買い付けを吾輩らに語ってくれる二,三の御主人たちが。
安楽椅子　わたしたちはチョコレートボンボン旦那と爆弾奥様のもちもの。
椅子　トロンボーン旦那と竜巻奥様のもの。
ひじ掛け椅子　牛の骨旦那とセーター奥様の。(*休止*)

ソファー　このブルジョア的なお部屋に，パーティのためのこの広間に，ありふれたマラリアにかかった，年老いたカップルが住んでいる。
安楽椅子　これは彼らの文学的で簡潔な賞賛に値する物語。

（*戸口にノックの音が聞こえる*）

内側の声　タン！タン！　玄関だ……（*家具を演じる役者は全員頭を隠す*）
間髪入れずセーター夫人の声　内側で　開けときな，開けときな扉を，眇のノルベルタ・ベルタ。（*ノルベルタ登場*）
戸口での声　ノックをしながら　パン！！
牛の骨氏の声　内側で　おいとけテーブルに，テレサ，こわばったトルティージャを，マヨネーズを，ウスター・ソースを，それに……
セーター夫人の声　（*内側で*）　スススススススススススス…
夫婦ふたりで一緒に（*去りながら*）
チョー！
内側の声　変よ！　ピピピピピイイイ！
（*夫婦ふたりともそちらを見る。フィフィー入ってくる*）
牛の骨氏　フィフィー！　ティティー猿みたいに可愛いフィフィー！
セーター夫人　（*汚いものから身をはがすようにして*）それニオイアラセイトウ？
牛の骨氏　そうだよ。
セーター夫人　（*フィフィーにむかって*）お前は誰と結婚したいんだい？　お月さまとかい，お日様とかい，それとも太鼓叩きの年寄りとかい？
フィフィー　（*半ば歌いながら*）パパ，ママ，あたしが一緒になりたいのは踊りを知っているような恋人よ。
クソ詩人の声　（*内側で，鼻歌をうたいながら*）君，ぼくと結婚してよ，コーヒー色の靴と靴下をあげるから。
牛の骨氏　（*びっくりして飛び上がりながら*）フィフィー，こっちへおいで！　歌っているあの恋におちた男は誰だね？　お前にプロポーズしている図々しいやつは？
フィフィー　わたしの将来のお婿さんよ！　パパ，ママ，歌うことを知っているこの小鳥ちゃんと結婚させて。
セーター夫人　この図々しさには我慢できないわ。
フィフィー　でもあたしの話をあたしは分かっているわ。
牛の骨氏　お前によそもの向けの金を送ってやろう。お前にわしの財産すべてを残してやろう，だが愚か者がそれを盗むのは許さんぞ。
フィフィー　パパ，ママ，あたしは結婚するわ，歌うことを知っている小鳥ちゃんと。
クソ詩人　（*外側で歌いながら*）君はぼくと結婚するんだ，ヒョウタンの可愛娘ちゃん，もしぼくらが結婚しないとコヨーテがぼくらを食べちゃうぞ。明日の朝おいで，急いでおいで，じいさんが儲け仕事に勤しんで婆さんがミサに出かけているあいだに。ぼくと結婚しろよ，だって

僕は君を愛しているんだから。ぼくと結婚しろよ，仔牛のお顔ちゃん。おいで可愛娘ちゃん，君がほしくてたまらない。君を待ってるよ，待ってるよ，待ち伏せ場所で。

セーター夫人　（*絶望したように*）畉のノルベルタ・ベルタ，なぜ戸を開けたままにして，この厄介者のハエを中に入れたの！　（フィフィーにむかって）お前を踏み殺してやろうか，お前を窓から放り出そうか！

フィフィー　（*決心したように*）明日あたしはあたしが知っている人と結婚するわ。

牛の骨氏　（*抜けそうな膝を支えながら，懇願して*）幕だ，幕，幕，わしに同情してくれ！　わしの災難を隠すために，わしに免じてこの災難を隠すために幕を下ろせ！

幕

第一幕

第一場

同じ部屋，ソファーと脚韻と呼ばれる椅子のほか家具はなし。看板がひとつ，「待ち伏せ場所」。この場面は，待ち伏せ場所，つまりフィフィーとその恋人が約束した逢引の場所である。ノルベルタが入ってくる。

ノルベルタ　（*前後左右をちらちらと見せながら*）恋に落ちた女フィフィーがこの十字路で約束しているのさ。神様は彼女になにも起こらないことを望んでいるんだね。（*その後，両腕を高くあげて*）待ち伏せ場所で輝く眼よ，待ち伏せびとの守り神よ。あの娘の善良さを守りたまえ，あの娘の魂を穏やかに保ちたまえ，あの娘の信仰心を燃え上がらせたまえ，あの娘のおとなしいキボウを広げたまえ！　バラ色の包帯をこの年老いた小心者たちのだらしのない両目のうえに，しっかりと置きたまえ！　結婚するわというフィフィーの返事を聞かぬよう，年寄った耳をふさぎたまえ！　奥様と旦那様を分別ないままにとどめたまえ，爆弾夫人のチョコレートボンボンが，セーター夫人の牛の骨が，竜巻夫人のトロンボーンが，外にまで破裂し，割れ散らばり，鳴り響いたりしないように。クソ詩人が自転車でやってくるようとりはからいたまえ，今日が佳き日になるように，彼がきちんとふるまい，髭を剃りシャワーを浴びてくるよう，きちんと装って，手入れが行き届いているよう，注意を払わせたまえ。そうすれば牡カバが牝カバを愛するようにここの奥さんは彼を気に入ることでしょう。

第二場

（*上記登場人物［ノルベルタ，無言］とフィフィー*）

フィフィー　（*スポットライトを浴びながら入ってくる*）*早口で情熱的に*。彼を愛してるわ，だから待ち伏せ場所で彼を待つの，彼をあがめているわ，だから水洗便所で彼に泣きすがるの。

パパは彼を嫌っていて祝い事に彼を招待しなかったわ。それにママは彼を忌み嫌っていてママの憎しみはますます増すばかり。けれどノルベルタは彼のために戸口を開けたままにしてくれる。わたしは彼を揺すって彼を気にかけて彼のために祈って彼にいたずらをしかけて彼をうっとりさせて彼にまとわりついて彼に咳をひっかけて彼をコチコチのままで放っておくの！

第三場

（*上記登場人物とクソ詩人。ノルベルタ退場。*）（*クソ詩人，自転車に乗って登場。*）

クソ詩人　すてきな縮れ毛ちゃん，ごきげんいかが？

フィフィー　上々よ。

クソ詩人　それは上々！

フィフィー　この脚韻にお座りなさいよ！

クソ詩人　（*脚韻*［という名の椅子］*に腰を下ろして*）面と向かって君・あなたの言い方で君と話し続けるよ，お米の小壺ちゃん。

フィフィー　あたしの心のアコーデオンにのせて，あたしの愛の言葉は長くつづくのよ，あたしにピン，ピン，ポン，ピンと音をださせて。あなたにむけてあたしの純な魂は鳩時計の小鳥のように　どんな歌よりも上手に　愛しているわヨンと単調な歌声で歌うんだわ。

クソ詩人　夏のように熱いお前の手は，ぼくに告解する可愛い小鳥の印象を与えてくれる，それにお前の誠実さのもつ多孔質を前にして牛の骨氏への怖れはぼくから取り払われる。ろくでなしどもの重荷を背負ったお前のまなざしは，にぎりしめた拳のように，お前のそれが秘密のごとくに落ち着かずにいる間に，ぼくの心を萎縮させてしまう，けれど野暮ったいリボン飾りをつけたお前の頭は堅く，ぼくはお前のやわらかい脚と，机の脚の怠惰さや椅子の尻のくすぐったさとは裏腹なお前の足首の間にすわるのさ。

フィフィー　（*ものすごくいらいらしながら*）でも別れの言葉の瞬間は，出発するときの貨物列車みたいにあなたの考えが感じられるとき，それにあなたのキスの優しさが急行列車のあわただしさみたいなとき，ひどく悲しいものよ…。

クソ詩人　（*きわめて愛情深そうに*）だから最後に，受胎しているぼくの愛のふくらみをお前の網膜に見せようと顔をのぞかせにきたのさ。お前がアソコの興奮と，鳩のしとやかさと魚の愚かしさをもっている間に……でもお前は乞食の銭受け皿みたいに愚直なんだね。（停止）（*言い寄りながら*）渦巻き毛と一緒にお前の心をぼくに開いたままにいてくれ！

フィフィー　（*あだっぽく*）イヤヨ！　（迫りながら）パパの金庫がファ音記号で開くのか，レ音記号で開くのか，あたし知らないのよ。

クソ詩人　ぼくがペ音記号で開けてやるさ。（停止）ぼくはお前の金を愛してるんだ。

フィフィー　そしてあたしは，パパが自分のシルクハットを愛するようにあなたを愛しているわ。

第四場

（*上記登場人物とノルベルタ*）（*ノルベルタどたばたと駆け込んで来る。驚愕した顔つきをするように*）

ノルベルタ　全部セーター奥様と旦那様に筒抜けですよ！　珍妙な焜炉の隣で，傲岸不遜なきちがいのガチョウがアザラシのおばけをみつけたみたいになってますよ！あれまあ悲鳴をあげてるわ！！　キーキー叫んでますよ！！

セーター夫人　（内側で）フィフィー，フィフィイイイ！

第五場

（*激怒の色濃く，紫色になって，セーター夫人入場*）

セーター夫人　あいつを殺してやるわ，肩の骨を，足を，腓骨を折ってやる！（*彼の方に向きながら*）お前など大嫌いよ，お前には我慢ならないわ。お前のごまかしがわたしを不幸にしたのよ，お前の叙情詩がわたしをこんなパントマイムに巻き込んだのよ。豚の鼻面をしたクソ詩人め，お前の指の骨をバラバラにしてやる。趣味で悪事を働く盗っ人め，お前の胸骨を磨いてやるわ！（*さらに喚きたてる*）**牛の骨！　トロンボーン！**

ノルベルタ　（*彼女に注意を呼びかけながら*）**セーター奥様！　竜巻奥様！**

セーター夫人　ケーキ結構，傲岸かまそー，コケコッコー！　コケコッコー，ケーキ結構，傲岸かまそー！

ノルベルタ　（*悲しんで*）フィーフィー！　奥様！　セーター！

セーター夫人　（何もしないで，もっと強く叫ぶ）**うんこケコッコー！**

ノルベルタ　なんてひどい悲鳴，なんてひどい仕打ち，なんて荒い鼻息，なんて荒い息遣い！

セーター夫人　（*ソファーにどさっと腰を落として*）ソファーで気絶しそうだわ。

ソファー　（*立ち上がって*）ソファーのサバーで。

幕下りる

第二幕

第一場

問屋のオフィス。トロンボーン氏は非常に真剣に勘定書きを調べている。立ち上がり，話す。

わしのタンスからわしの魂を，億万もの金の持ち主の魂を取り出して，ゆっくりと財産目録をつくるとしよう，中身はこうだ。わしが持っているのは，先祖伝来の梅毒スピロヘータ，盾型紋章に描かれた血吸い蚊，へその中のイチジク。このわしは心をもった酒壺，上着とズボンをはいた酒壺，そしてわしの上着からひらべったい酒瓶と乾いた涙を取り出すのだ。このわしは硬派男優みたいな無情な男，このわしは忘恩の罪しかもたぬ葉巻のような純な男。忘恩というのは，冷淡なキスのひとかけら，果物みたいにあかぬけぬ女中に与えてやった骨のボタンのようなキス。わしが所有しているのはコーラの樹でできた自動ピアノ，広間［サラ］か

ら交響曲（あるいはかつてそう言われていた）の「ホッタテガイだかビオラだかのための呆響曲」を溢れさせる。わしのバイオリンが奏でるゴミクズの音やわしの木管の楽器が出す荒々しい音にあわせて，独楽踊りをわしは踊る。だがわしはわしの自動ピアノのすべてを愛している，わが自動ピアノ，マノーラよ！　（*停止*）だがこれは小指のような歯をした彼女のプシュケーが唾を吐くときに終わってしまったこと，これは街道が街道でこの世界が二番目の世界だった時代，アンダルシア民謡の時代だったときのこと……。

（*上の台詞をしゃべっている最中に入ってきた店員たちに向かって*）

…今やすべてが平穏だ，友ニコラスよ，だからフィフィーは結婚しているのだ，友コロナードよ，有名なクソ詩人とな，友バステキエタよ。（*停止*）フィフィーとあの娘の夫？　愛の巣さ。篩いにかけられたトウモロコシ粉のドロドロした甘いジュースみたいな。カッコー，カッコー。あなたはだぁれ？　失敗したベニートの小鳥ちゃんだよ。モー，モー。おたくはどなた？ビフテキですよってなもんだ。クソ詩人ときたらルーレットみたいにどんどん太っていく。あいつの太鼓腹はロマンセには不釣合い，秤が指すのは208ポンド。もう折れた脚じみた交差詩型は治ったし，追加句のかわりに口ひげが生え，あいつのソネットの骨格はバラバラになっている。あいつの商売の，高い値段のキスでできた愛の商売の，幸福な暇つぶしの共住まい，田園恋愛詩のようなブルジョア的な9ヶ月！　あいつの情熱の結末といえば若き紳士をはらませることだと！！　（*停止*）眇のノルベルタ・ベルタがわしの戸口から入ってきて，天の神様がわしを祖父にしてくださったと告げ，わしの孫のアニセトをわしのもとにつれてくるとき，それはわしのものもらいにとってどんなに慰めになることか，わしの水腫にとってどれほどの喜びか，わしの鉤足にとってどんなに楽しいひとときだろうか！　わしの可愛い孫のリトは丈夫さで楽しませてくれるようになるだろう。ヤマウズラのようなわしの赤い両目と鼻をひっぱることだろう，しかしクソ詩人の鼻面もやつの角笛みたいに曲がった脚もリトはひっぱりはしないだろうさ。モナリザの平らかな微笑みやモンテクリスト伯爵の金をリトは持つことになろうよ，けれどもあの子にわしの金すべてを残してやるためには，わしには鉱業技術者が必要だ。（*停止*）わしの子孫のチェンテは人びとの賞賛の的になるだろう，なぜならあの子のママちゃんのフィフィーのようなコケコッコーを，賢そうなコケコッコーを，頭の天辺からのコケコッコーを身につけるだろうから。*立ちどまる*（*電話が鳴る*）*電話にとびつく*（*電話でしゃべりながら*）

牛の骨氏　もしもし。何が起こったというんだ，ああ？　（停止）　もう一度言え，逆に言え。馬鹿者の守護聖人が生まれたというのなら，さっさと言うんだ。かたわが生まれたことなら，はっきりわかっている。（*停止*）来い，来い，すぐ来い。わしがお前に言うものをもってくるんだ，あの子にヘソを見せてやりたいからな！　（*電話を切り，店員たちに対して喜び勇んで*）クソ詩人の息子が来るとさ，友バステキエタよ，わしのオフィスに来るんだと，友ウルビーナよ，一杯飲むとしようか，友ウバーゴよ。（*みんなで酒を飲む*）

店　員　その1　じつに素晴らしいあなたの孫に乾杯。

店　員　その2　じつに可愛らしいあなたのお孫さんに乾杯。

店　員　その3　じつにおしゃれなあなたの孫に乾杯。

店　員　その4　じつに賢いあなたの子孫に乾杯！

第二場

御包みの赤ん坊を抱き，びくびくしながらノルベルタ登場。牛の骨氏，赤ん坊の御包みをぬがせ，がっかりしたように話す：フィーフィーはイグアナを産んだのか！

ノルベルタ　色黒混血のイグアナ！

牛の骨氏　ハコボ！（*そして赤ん坊を取り上げる*）この子の名付け親はゴキブリだろうさ，ゴキブリのナーチャだろう。（*激怒したように*）ハコボを，ブルジョアジーと詩の不純な混合物である盗っ人のこの産物を連れていけ！*おずおずと店員たち退場（悲しげに，憂鬱そうに）*。わしの金色の夢はだめになってしまった。*店員たちが一人ずつ，うろたえながら立ち戻ってくる。*

店員その1　あわれな山高帽旦那，彼の問屋はもううまくは卸さない。電報といえば極地に届くだけ。

店員その2　（*くちばしをつきだしたような顔つきで*）店員の顔にくちばしが生え，靴下はスケート靴ですべり，レコードプレーヤーからは尻尾が出てきて，ピストルには羽が生える。

店員その3　出し物が劇場に4つずつくりだすし，1＄あたり何銭ではなくて10,000ねぶとになるし，宝石と小刀は自分の箱に入って旅をするざま。

店員その1　価格は値上がり僧帽筋になるは，％　％　％は座席に座り込むは。

店員その2　短靴はアヒルのように泳ぐは，マネキン人形は逃げ出すは，時計は亀の卵を産むは，傘は自分のペチコートのしわを伸ばすは，はたまた帳簿のフォークは，目を丸くした港の硬直した眇の死者たちと一緒になって，食器セットのあいだで紛失したかのようだは。

店員その3　賊は石鹸を盗んでる！　ハムの腿肉はレースをしている！

店員その1　古めかしい中身のものはフランスからやってくる。

店員その2　レバーの魚卵からフロックコートが産まれる！

店員その3　オー・デ・コロンの名前はアポロニアというそうな。

（登場しつつ）**ノルベルタ**　女中が呼び方を聞く！　瓶は小間使いではありません，それらの杭は瓶の蓋と申します。

合唱：あわれ山高帽旦那，彼の問屋はもううまく卸さない！*山高帽氏は知らせがくるたびに顔に恐怖の表情をうかべて，苛まれ絶望したように椅子に身を沈めてしまう。しまいに耳をふさぎ，幕が下りる。*

終幕

第一場

序幕と同じ広間。真昼。昼食後のおしゃべり。山高帽氏。セーター夫人，フィフィー，クソ詩人，ノルベルタ。死神が登場する，正面奥の扉が見えるようにしておかなければならない。

山高帽氏　（うとうとし，いびきをかきながら）ククククコォォォ　ククククコォォォ　ククククコォォォォォォォ，　そんな風にいびきをかくのだ，わしは！

フィフィー　ククカ　ククカァァ　ククカァァ，こんな風にいびきをかいてらっしゃるわ，パ

パは。

ノルベルタ　ククケェェ　ククケェェ　ククケェェ，こんな風にいびきをかいておられます，旦那様は。

セーター夫人（*戸口で*）クククゥー　ククウウウ　クウウウ，こんな感じにいびきをかくのよ，あなたは。

山高帽氏　なんて幸せなんだろう，わしらは！

フィフィー　なんて穏やかなのかしら，あたしたちは！

セーター夫人　なんておいしいのかしら，わたしらが食べるものは！

クソ詩人　それになんてよくぼくらは眠ることか！

山高帽氏　喜びいっぱいさ，わが娘，夢の途中に生きていたときわしが引き継いでいたものから遠く離れて！　叙情詩の無言劇がもたらした，わしの不快さはすでに終わったし，この愚かな夫婦の不平ももはやわしのものではない。わが家の幸福は完璧，わしの問屋はうまくいっているしわしも同様，それにわしの孫，イグアナのハコボにもみくちゃ抱っこをしてあげるとき，大いに恍惚を感じるしな。

ノルベルタ　それにあまりにわたしどもが運が良いので，死神を思い出しもしませんしね。

第二場

停止。扉が一杯に開く。死神登場。

死神　わたしこそ，つんぼでででぶの強き死神。（*死神，部屋に入ってくる。全員立ち上がる。*）

山高帽氏　あんたは間違っているぞ。わしのオフィスの，死んだご婦人よ，戸口から，あんたのような恐ろしい女神をわしらは呼び出してはおらんぞ，たぶんそこの角の近くに住む女があんたを待っているのさ，今わしらはみんな健康だし，うじ虫に怖気をふるっている。

死神　みんなわたしの手の中にいるんだよ。わたしこそ，つんぼでででぶの，強き死神。

山高帽氏　立ち去れ，横柄なばばあめ！　立ち去れすぐに，わしの家族を安らかなままにしておけ，もしチンプンカンプンな騒ぎをおこすつもりなら，警察を呼ぶからな！

死神　（*かぶりをふって*）わたしこそ，つんぼでででぶの，強き死神！

フィフィー　あたしはここに残しておいて，墓に入るにはまだ期が熟していないんだから。

死神　お前もほかの連中と一緒に来るんだよ！

ノルベルタ　わたしはこのばかさわぎにまったく関係はありません，わたしはこの家族の一統じゃありません，わたしは巧みに言い逃れるよ！（*脇へと逃れるが，死神は長柄の鎌で彼女を引き止める*）

死神　死への流れがお前を引きずっていくよ！

クソ詩人　死神よ，お前の顔など見たくもない！　ぼくの詩作を書きあげるために残りの時間をあたえてくれ。二番目の著書のためにわずかな時をあたえてくれ。ぼくの傑作のお手本をお前にみせてやるから，たとえ出来が悪くてもぼくの名を不朽のものにしてくれるはずのやつを。

死神　お前はわたしのずた袋に入りな！

セーター夫人　食事をとるためにほんの少し待ってちょうだい。自家製のおいしい料理の一皿を食べるためにちょっと待ってちょうだい。ココ酒を飲むためにわずかだけ待ってちょうだい。スイカを食べるための一日でいいわ。イグアナを食べるための一週間でいい。詰め物料理を食べるための半月でいい。牛肉を，あるいはせめて何もかも皮までついた完璧な仔牛を食べるためのひと月でいいから！

死神　お前を待ちなどしないよ！

山高帽氏　（*偽善的に*）何をしようというんだね！　ねえ，お前によろこんで身をまかせるし，わしは大人の欺瞞をもって，ワインカクテルのものもらいを患ったまま，聖母マリアの水腫に罹ったまま，名誉ある者の下品さをいだいて，ひとり死んでいく。なぜならわしは，わしの家畜のえさのことを考えるとき，脂身でわしの太鼓腹を満たすとき，それに女のアソコにある痣を引っ掻くとき，わしの腐った人生を愛しているからな。（*尻を引っ掻く*）

死神　（*山高帽氏に対して*）お前もわたしのリストに載っているよ，エゴイストの爺さん！　（*全員にむかって*）お前たちの下劣な世界にお前たちを一秒たりとも留めておきはしないよ！　わたしこそ，つんぼででぶの，強き死神なのだから，わたしは墓に，蛾だけがひやかしてくれるところに，お前らを連れていくのだから…。

死神が長柄の鎌をふりあげ，幕が下りる。

José Coronel Urtecho & Joaquín Pasos, “Chinfonía Burguesa: Farseta en un Prólogo, dos Actos y un Epílogo”, en Cuadra, Pablo Antonio (ed.), *3obras de teatro nuevo*, Academia Nicaragüense de Lengua, 1957, pp.5-11.; Jorge Eduardo Arellano (comp.), *Tres Obras Teatrales de Nicaragua*, Managua, Ediciones Nacionales, 1977, pp.3-5.